

「義の太陽があなたの上に昇っている！」(2019.12.15)

「しかし、わが名を畏れ敬うあなたたちには義の太陽が昇る。その翼にはいやす力がある。あなたたちは牛舎の子牛のように躍り出て跳び回る。」(マラキ 3:20)

待降節・アドベントを迎え、御子の初臨を追憶し、御子の再臨を待望する祈りの季節に入っています。預言者マラキは、この御子の来臨を「義の太陽が昇る」と表現しています。御子キリスト＝義の太陽、という表現は聖書中ここだけですが、的確に御子の使命を言い表しています。義の太陽とは、正しさが太陽のように輝いている存在、神の律法を完全に守り行い、神への愛と隣人への愛のためにその全存在を捧げている存在、ということです。これがメシア・救い主の姿です。死に至るまで、十字架の死に至るまで従順を貫き、愛を貫いたイエス様の姿です。では、その翼、太陽の翼にはいやす力があるとはどういうことでしょうか？太陽の翼と言うのは、太陽が放つ光、光線のことです。太陽の光は布団を干すと細菌やウイルスを殺して清潔にしてくれます。一方、植物には光合成を促し、栄養素や酸素を作り出します。つまり命の源です。そのように義の太陽は、その義の光を浴びる者を義とするのです。罪を消滅させ、もはや責められるところのない者、さらには神と隣人への愛に生きている者とするのです。これがクリスマスを祝う最大の理由です。

旧約聖書にヤコブという人物が登場します。狡猾な人間で兄や父を欺くのですが、いよいよ和解しなければ生きていけないところに追い詰められます。その時、神と格闘するのです。そして、祝福して下さるまでは放しません、と必死にしがみつきます。その鬼気迫る真剣さに神は祝福を約束します。こうして神の祝福を確信したヤコブは、赦しを乞うため兄エサウの前に進み出るのである。その時の様子を聖書はこう表現しています。「太陽は彼の上に昇った。」(創世記32:32) もちろん、すべての人に太陽の光は降り注いでいたのです。しかし、太陽は彼の上に昇ったというのです。



義の太陽はすべての人の上に昇ったのです。そして、同時にあなただけの上に昇っているのです。その翼にはいやす力があります。是非、今年のクリスマス、あなたのために昇った義の太陽に照らされませんか。